

5 .「水道事業の方向性」

1 .〔安全な水、快適な水の供給〕・水質、水圧のレベルアップにむけて

- (1) 上水道の水源は、浅井戸9箇所、深井戸4箇所となっていて水質は良好です。ただし、三面川や荒川では地表水による影響を受けやすいので、これら河川の水質状況を監視することも必要です。

特に荒川にあっては、これまで同様、流域関係市村で構成する「荒川水系水源水質監視協議会」による水質検査を毎年実施し、監視を強化していかなければならないと考えています。

- (2) 簡易水道の水源は、そのほとんどが伏流水(浅井戸)となっていて、水質は良好です。ただし、表流水を取水している簡易水道施設では河川の濁りによる影響を受けやすいので、これら河川の水質状況の監視と浄水処理方式の検討も必要です。

また、現在、実施している上海府地区と羽下ヶ淵地区、下渡地区の統合をはじめ、南大平・指合地区と河内地区などの統合計画も進めながら、将来にわたり供給能力に心配のないものにしていかなければならないと考えています。

2 .〔いつでも使える水の供給〕・需要、水量、普及、災害時のレベルアップにむけて

- (1) 上水道の最近5箇年のうち、一日平均給水量が多かったのは平成16年の24,016 m³/日で一日最大給水量41,500 m³/日を有する現在の能力で十分賄える状況にあります。

しかしながら、将来にわたり安定供給の確保を図るためには、現在進めている村上地区の第4次拡張事業による第二水源地や浄水池の稼動とともに、老朽施設や老朽管の更新、改良工事などを計画的に進めていく必要があります。

- (2) 簡易水道の最近5箇年のうち、一日平均給水量が多かったのは上水道と同じく、平成16年の4,968 m³/日で一日最大給水量6,248 m³/日を有する現在の能力で、上水道と同様十分賄える状況にあります。

しかしながら、将来にわたり安定供給の確保を図るためには、小規模施設の統合事業、老朽施設や老朽管の更新、改良工事などを計画的に進めていく必要があります。

- (3) 近年日本列島のあちこちで地震、豪雨などの災害が頻発していますので、災害時における安定供給も求められています。

しかし、当市の水道施設の現状は、配水池の耐震化施設率で37.2%、管路にあつては2.6%にとどまっており、村上地区の第4次拡張事業の施設工事から耐震構造や災害時の給水拠点となるよう進めています。また、まだまだ低い状況にあるため、今後の拡張、統合事業や施設改良では耐震化を考慮した整備を図っていく必要があります。

3.〔将来とも安定的な事業の運営〕・更新、経営、サービスのレベルアップにむけて

- (1) 現在、老朽管の改良工事や施設の更新等を進めることで、安定給水と有効水量の確保を図っていますが、財政事情等を勘案しながら進めていますので、まだまだ時間を要する状態です。下水道工事等とあわせた効率的な整備を図っていく必要があります。

- (2) 水道料金については、合併協議では合併後6年間で段階的に料金改定を行い、合併7年目に料金を統一することで調整しています。また、旧市町村それぞれに違う料金体系についても「口径別従量料金制」に統一することとしています。

老朽化施設の更新や災害に備えた施設対応のためには、需要者の理解を得ながら適切な料金改定が必要となります。

供給者は需要者のニーズに応えながら、一方では「いつでも、安定的に、安全な水が持続的に使用できるためには」という、コストに関する情報を得ながら需要者自らが水道事業を考え評価できる、供給者と需要者のパートナーシップの確立が求められています。

- (3) 将来とも安定的なサービスを行っていくためには、常にそれを監視し、維持していくための専門的な技術が必要とされます。

施設の統括的な民間委託等が進められる中であつて、施設、設備も高度化されていくにつれ、専門的な立場で方策を提言できる技術者は益々重要になります。技術者の確保や技術の研修を重ね、将来とも安定的なサービスを行っていく必要があります。

4.〔環境への影響を配慮した事業の運営〕・省エネルギー化にむけて

村上市が他の都市と肩を並べて21世紀の水道事業を進めていくためには、最近の世界的な動向である「地球環境の保全」も重要課題として考慮する必要があります。

当市においても機械設備の運転には電力エネルギーが用いられており、消費

電力の削減のため、効率的な運転管理や太陽光発電など代替エネルギーの活用等も検討していかなければなりません。

5 .〔国際協力の視点〕・ ・国際協力にむけて

上下水道施設に係る国際基準化の動きなど、国際化の動きが活発になっていく中で、当市の地域特性を踏まえた情報収集も重要であると考えます。